

# インディアナ日本語学校便り

だいごう  
第23号

令和5年11月4日事務所 317-255-1631 メール [ijls@indiana-j-school.net](mailto:ijls@indiana-j-school.net)

(HP) <http://www.indiana-j-school.net>

校長 森 勝義

## 「文化の月：11月」

### ～ハロウィーンを通して感じるアメリカ文化～

校長 森 勝義

この一週間ほどで、木々の紅葉も色づきはじめ、いよいよ冬の到来を感じさせるようになってきました。11月に入ってきました。雪もちらつきはじめ、厳しい寒さを感じさせるこの時期、保護者の皆様、体調など崩されてはいないでしょうか。日頃から健康管理等、しっかりと取り組んで行くよう、自身も気をつけていきたいものです。

11月中、日本ではどこの学校でも学芸会・文化祭を開催します。なぜ、この時期に行うことが多いのでしょうか。それは日本には「文化の日：11月3日」が設定されているからなのです。文化の日の趣旨は「自由と平和を愛し、文化を進める日」ということです。

文化という言葉は、英語のカルチャーを翻訳したもので、言葉のものは「耕す」という言葉から生まれたのだそうです。田や畑を耕すという、人間の最も基本的と言ってもいい働きを表す言葉が、やがて「文化」という言葉になったそうです。よりよい学校や社会を目指してみんなと力を合わせて文化を高めていく努力は毎日続けなければなりません。自分の心や頭を耕す努力も、日々必要なこと。この文化の日を通して、これらの大切さの確認をしてもらいたいと思います。

オーチャード校でも10月31日、ハロウィーンパレードが行われました。幼稚部から中学部の皆さんが思い思いのコスチュームで、保護者が廊下両側で待機している中、楽しそうに笑顔で歩いていました。恐竜やピカチュウ、映画のヒーロー、ヒロインに扮した子どもたちを見て、アメリカの文化に触れることができました。

名物のカボチャちょうちんは、最も特徴的なハロウィーンのシンボルであり、慣習のひとつでもあります。人々は大きなオレンジ色のカボチャをくりぬいて怖い顔やおもしろい顔を作り、その中にロウソクなどで明かりをとめてちょうちんにするそうです。「ジャック・オ・ランタン」の風習はアメリカで作られたもので、昔はカブで作っていたそうです。

日本でも「仮装パレード」は東京渋谷や全国各地で開催され、小学校の英語授業で、アメリカ文化理解として、学校で仮装したりします。日本のドンキーで売っているコスプレも今では本場アメリカと同じくらい充実しています。日本もハロウィーンにちなんだ期間限定のお菓子がコンビニなどに並びます。大人も子どもも一緒になってハロウィーンを楽しんでいます。

しかし、ハロウィーンについては昨年、痛ましい事故がありました。「梨泰院ハロウィーン事件」です。2022年10月29日深夜、ハロウィーンの人で賑わう韓国・ソウルの梨泰院（イテウオン）で人並みに押しつぶされて159人が亡くなるという大惨事がありました。自分自身で常に危機管理能力を養い、意識を高めていくことが重要です。

本日、本校では火災を想定した「避難訓練」が実施されます。カフェテリアから出火、緊急放送の指示を聞き、直ちに校舎外へ退避した後、迅速に正面玄関前広場に集合する訓練です。1学期の避難訓練（不審者対応）で確認したこと、「お」「は」「し」「も」「ち」（・おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない・ちかづかない）を常に頭に置いて日常の生活、学校での生活を送っていくことが大切です。自分が危機管理を意識していても、被害に巻き込まれる可能性があります。ここは日本ではありません。アメリカです。

